

コートジボアールのカフェ

企画展示「アフリカのストリートアート展」出展作品 幅/410cm 奥行/230cm 高さ/260cm

川口 幸也

文化資源研究センター

コートジボアール第一の都市アビジャンは、西アフリカの経済、文化の一大中心である。はじめてこの街を訪れる者は、プラトール(高台)と呼ばれる都心一帯のあまりのモダンなたたずまいに面食らうに違いない。モダンというよりも、前衛的といったほうがふさわしい奇抜なデザインのビルが建ち並び、その間をハイウェイが縫うように走る様は、さながら



ら手塚治虫描くところの未来都市だ。ためにビルのひとつに入ってみると、空調のきいたカフェで、洒落たスーツに身を包んだ地元のビジネスマンが、ハイネケンを片手に談笑していたりする。プラトールがアビジャンのよそ行きの姿だとしたら、ラゲーンを挟んで対岸に位置するトレシビルはさしずめ普段着のアビジャンだ。そこには、何でも売っている、

活気に満ち溢れた大きな市場があり、多種多様なレストランや安宿もある。暮盤の目状に張り巡らされた路地では、屋台が軒を並び、物売りたちが大声で客を呼び込んでいる。もちろんヤミの両替屋や売春婦など、怪しげな手合いにも事欠かない。走り抜けるクルマの排気ガスとけたたましいクラクションは、おなじみアフリカの都市の効果音だ。

そうした庶民の生活の臭いが濃厚にたちこめるこの地区の憩いの場のひとつが、たとえば表紙の写真にあるカフェである。一見粗末なベニヤ板造りだが、なかにはガスコンロもあって、簡単な料理ならOKだ。壁に貼られたメニューによれば、牛ステーキとレヴァーは八〇〇セーフアー(約一六〇円)、ケチャップで炒めただけのスパゲッティ、それにオムレットが三〇〇セーフアー(約六〇円)、飲み物は紅茶が一五〇セーフアー(約三〇円)と値段はいずれも手ごろ。ビールは地場銘柄が売れ筋だ。

夜のとばりが降りるころ、スーツではなく、Tシャツにサンダル履きの人びとが三々五々集まってきたのは、ここで一日の疲れを癒していく。ちなみに、店の名前の「Le Silex」とはフランス語で火打ち石の意。二〇〇三年まで実際にトレシビルの一隅で営業をしていたカフェである。